

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2017年
11月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

今の子どもたちの「国語力」について

～あの～、会話が成り立っていないんですけど・・・(T_T)～

A 「先生、トイレ～」

私 「なに？先生はトイレちゃうよ！」

A 「トイレ貸して下さい～」

私 「最初からそう言いなさい！！」



B 「4番下さい」

私 「え？4番って何？」

B 「十マス計算プリントの3番が終わったので4番下さい」

私 「じゃあ、最初からそう言いなさい！！」



小学部の授業でよくある会話です。最近の子は本当に会話が短いです。(そもそも先ほどのやりとりは会話と言うのでしょうか・・・)確かに先ほどのような言い方でもこちらは何を言いたいのか理解しているのですが、わざと聞き返してちゃんと話させるようにしています。

子ども同士の会話を聞いていても、こちらは「???'なのですが、本人たちは理解できているかのように、会話が成立しています。恐らくしっかりと理解はできていなくて、雰囲気話しているのでしょう。

中学生の指導時には「文章題で、何を問われているのか理解できていない子」や「指示されたことを忘れる子」が非常に多いと感じます。

文章題の意味が分からないと言うので、書いてあることをそのまま口で説明すると「なんや、そういうことか!」と言います。同じ文章でも目で読んで理解できないのに、耳では理解できるのです。よほど読み取る能力が無いのでしょう。

あとは「記号で答えなさい」と書かれているのに、そのまま答えを書いている子の多いこと・・・(笑)

余談ですが、ベネッセが全国の中学生を対象に実施した調査結果では、上記のような「うっかり間違い」は各教科、平均 7 点もあったのだとか。このうっかりミス無くせば 5 教科だと 35 点、9 教科だと 63 点もアップします。しっかり意識して「読む力」を磨き、うっかりミス無くして欲しいものです。

「感情語」で会話する子どもたち

「ムカつく」「ウザい」「ヤバイ」「ウケる」「ビミョー」・・・これらの言葉、よく子どもたちが使っていませんか?これらは感情をストレートに表現した「感情語」と言います。

子どもが「ムカつく」だけ言って、自分に何が起こってムカついているのかを相手に分かってもらおうとするのは、赤ちゃんが「おぎゃ～」と泣いたり、犬や猫が「ワンワン」「にゃんにゃん」と泣いているのと同じです。

それに対して、同じ「ムカつく」でも、何がどのように「ムカつく」のかを他人に説明するための言葉を「論理語」と言います。

他人に思いを伝える・他人の言いたいことを正しく理解するにはこの「論理語」が必須になります。もしご家庭で我が子が「ムカつく」「うざい」など「感情語」を口にしたら「どうして?」「何が?」と質問してみてください。感情語では思いが正しく相手に伝わらないことを理解させ、日常生活から「論理語」を話す習慣づけをお願いしたいのです。

元東進衛星予備校講師で、全国 250 以上の学校で採用されている国語教材を作った国語科のエキスパート、出口汪先生は以下のように言います。

「国語力で人生が変わります。はっきりと断言します。絶対に変わります。」

出口先生いわく、国語力とは

①論理的読解力 ②漢字 ③語彙などの言葉の力

を指します。私達は日本人である以上、生涯にわたり死ぬ直前まで日本語を使い続けます。ですから国語力を鍛えることで話し方、読み方、文章の書き方だけでなく、思考力・記憶力・コミュニケーション能力までも格段にアップするのです。

出口先生は子どもたちの国語力を養うために、親御さんに意識して欲しいことを二つだけ挙げられています。

① 子どもの言葉遣いを注意深く観察すること

→国語力のベースを作る時期は、幼稚園～小学校の頃くらいからです。しかし、言葉の習得には個人差がありますので、これよりも遅い可能性もあります。

言葉の発達が遅い子に国語力を身につけさそうとしても不可能ですが、親が言葉の学習を手助けすることはできます。

それは親が子と密にコミュニケーションを取り、子どもの言葉遣いの変化（成長）に注

意し続けることです。その変化に気づいたら、親が正しい日本語で話すことを心がけるのです（感情語ではなく論理語ですね）

その際は難しい単語を使う必要はなく、易しい単語を使い、きちんとした文法を話すことが大切です。小学校の頃から日本語を論理的に話す訓練をしていれば、自然と自分の考えを論理的に人に伝えられるようになります。

②子どもと一緒に読書をする

→やはりこれか！という声が聞こえてきそうですが、読書をするということです。それも一方的にさせるのではなく、親も一緒にという部分が重要です。

幼稚園～小学校低学年くらいまでなら親が毎日一冊、絵本を読み聞かせてあげると良いでしょう。子どもが成長してきたら一緒に書店などに行き、子どもが好きな本を買ってあげましょう。そして読み終わったら、内容や感想を聞いてあげると子どもの読解力や理解力を養うことに繋がります。

近年は幼少期からテレビ・ゲーム・タブレット・スマホと映像から楽に情報を得ることに慣れてしまっていて、読書のように文字を読んで自分から情報を取りに行くことが苦痛に感じられる環境です。文字嫌いにならないように、極力長時間の映像視聴を控えるようお願いいたします。

様々な年代の人と話す機会を作る

当然読書は重要なのですが、より重要なのは「会話」です。

どれだけ読書が好きな人でも、活字を読む時間よりも人と会話している時間が多い場合がほとんどです。今はこの「会話」の時間が圧倒的に少なくなっているのです。家族の会話を思い出して欲しいのですが、

母「宿題した～？」 子「まだ～」

母「お風呂入ってよ～」 子「分かってる～」

のように、会話と言うよりも指示だけになっていませんか？家族間では言葉を省いても意思が伝わるため、意識をしなければどんどん会話が会話でなくなります。

出口先生は「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番」と仰います。大人の会話を聞いていれば、意味の分からない言葉が出てきても前後から推測するなどしながら、話している内容を理解しようとします。

以前はお盆やお正月など親戚で集まり従兄弟も一緒にワイワイ、ガヤガヤと会話を楽しんだものですが、最近はそのような機会も少なくなってきた、集まったとしても子どもは子ども同士で固まり、会話するわけでもなくそれぞれがゲームに夢中になります。

上記のように「勉強と思わず、勉強できる」環境が少なくなりつつあるのです。

だからこそ、できるだけ様々な年代の人と会話できる、または会話を聞ける機会を作ってあげることも国語力向上の手助けになります。

国語はセンス！！と考えられている方もいるかも知れませんが、国語はセンスではなく生まれてから今までの積み重ねの結果だと言えるのです。

我が子が小・中学生の今からでも遅くはありません。難しい言葉を使う必要もありません。簡単な言葉で良いので、正しい日本語を使う意識をしていきましょう。何事もそうですが、まずは親から。親が変われば子が変わります。

まずは今日から、

「ムカつく」「ウザい」「ヤバい」「ウケる」「ビミョー」

の感情語を日常の会話から排除してみましょう。意識すると意外と多くの感情語を口に出しているものですよ。

・ ・ このNEWSを見て、「ウザい」「ムカつく」と言われていないことを願います。

参考文献 子どもの頭がゲンと良くなる！「国語の力」 出口汪（水王舎）

ただ にほんご つか 正しい日本語、遣えていますか？

みなさんは日頃、正しい日本語を話していますか？今のうちに正しい日本語を話す訓練をしないと、将来大変なことになりますよ～。

かんじょうご ろんりご 「感情語」と「論理語」を知ろう

「ムカつく」「ウザい」「ヤバい」「ウケる」「ピミョー」・・・。

日頃このような言葉をよく遣っていませんか？別にこれらの言葉が悪いと言っているわけではありませんが、こうした言葉でしか自分の気持ちや考えを伝えることができなくなってしまうのは困ります。

例えば「ムカつく」と感情をストレートに表現するのは「感情語」と言います。逆に、何がどのように「ムカつく」のかを他人に説明するための言葉を「論理語」と言います。

人は死ぬ直前まで日本語を使い続けます。感情語が通じるのは子どもの間だけです。大人になったら、自分の考えを正しく人に伝える必要があります。そのためには「論理語」が必要なのです。

今のうちから「感情語」ではなく「論理語」を話す意識を持ちましょう。

今のうちに
論理語を話さないと
将来ヤバいよ～（笑）



こくごりよく じんせい か 「国語力で人生が変わります」

でぐちひろし こくごか
出口汪 ～国語科のエキスパート～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。